
第 1 章

平成18年の福島県経済の概況

第1章 平成18年の福島県経済の概況

総合判断

平成18年の福島県経済は、個人消費、建設需要の一部に底入れ感がみえはじめ、生産活動は好調に推移し、雇用も改善基調を維持するなど、回復が続いた。

(総合判断:上方修正 ◀)

日本経済は平成14年1月から景気回復を続け、いざなぎ景気を超え戦後最長の回復局面となった。

平成18年の経済動向を振り返ると、3月には量的緩和政策の解除、7月にはゼロ金利解除となり、5年振りに「金利のある世界」に復帰した。また、海外経済の高い成長が続いていることから、企業収益の増加、活発な設備投資など、企業部門の好調さが明確となった1年であった。

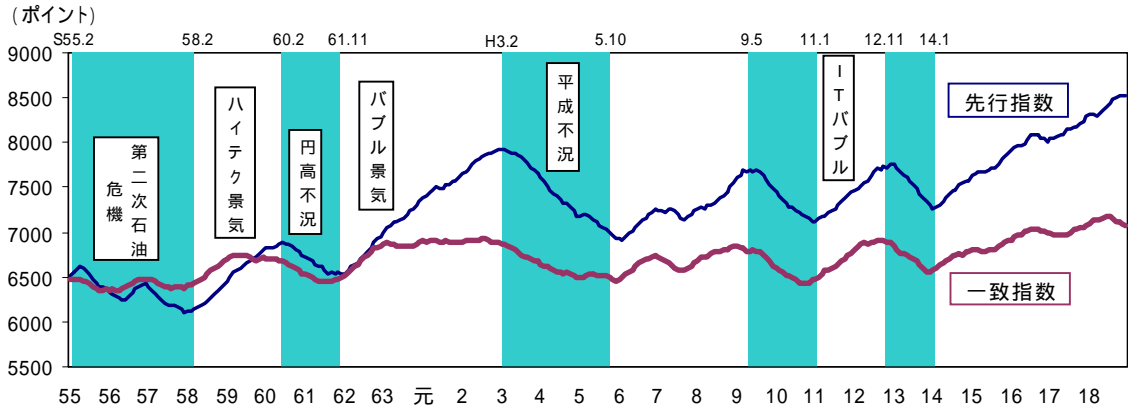
しかし、企業部門の好調さに比べ、家計への波及の進み方は遅く、景気回復の実感を伴わない1年でもあった(図1, 図2)。

このような中で、平成18年の福島県経済を振り返ると、前年からの緩やかな回復の動きは、雇用者所得への明瞭な波及までには至らなかったものの、個人消費に下げ止まりがみえはじめ、新設住宅着工戸数も10年振りに前年を上回り、家計部門では底入れ感がみえた。また、雇用情勢も、有効求人倍率、新規求人倍率ともに改善基調にあり、生産活動も外需と設備投資による日本経済の成長に沿って、好調に推移した。

一方、企業倒産は2年連続で負債総額が1,000億円を下回ったが、ゴルフ場などの大型倒産が目立ち、僅かに悪化。また、業務用建築物着工棟数も、年後半になると着工が鈍化し、前年を下回って推移した。

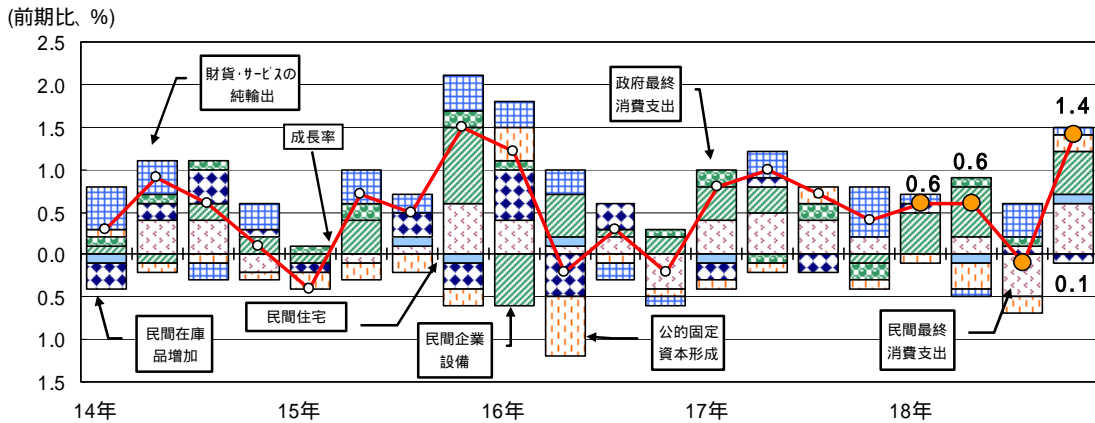
以上のとおり、平成18年の福島県の県経済は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の景気回復局面下において、個人消費、建設需要の一部で底入れ感がみえはじめており、昨年同様、生産活動も好調に推移し、雇用も改善基調を維持するなど回復の動きが続いた(図3)。

図1 累積景気動向指数(国)



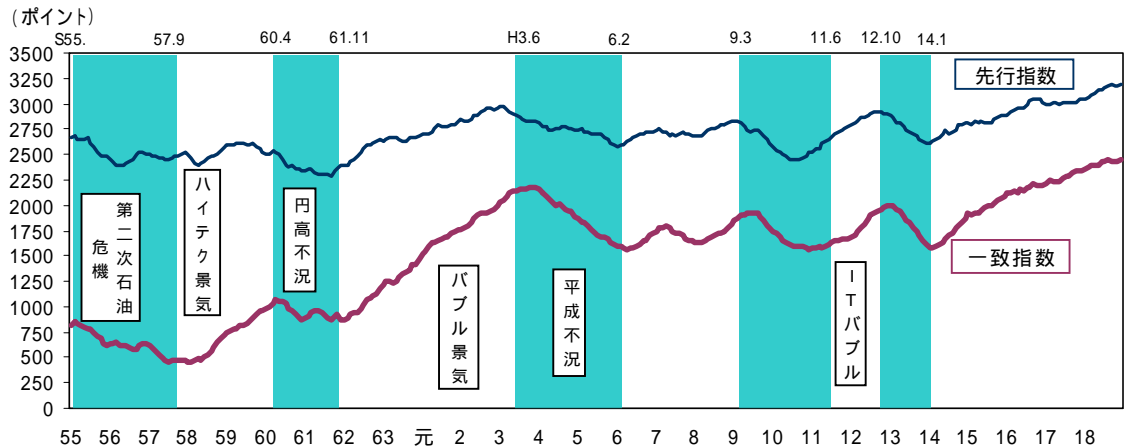
- 備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は日本経済の景気後退期を示している。)
 3 (比較のため、先行指数に+5000加算している。)
 4 (各景気の名称は正式なものではなく通称を付したものである。)

図2 国内総生産(GDP)成長率及び寄与度(実質、季節調整系列)



- 備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「需要項目別時系列表データ(連鎖方式)」より作成。)
 2 (平成12暦年連鎖価格。)
 3 (93SNA。)

図3 累積景気動向指数(県)



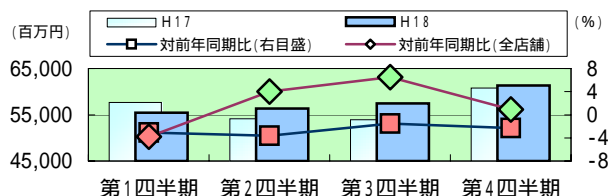
- 備考 1 (福島県情報統計領域「福島県景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は福島県経済の景気後退期を示している。)
 3 (比較のため、先行指数に+2500加算している。)
 4 (各景気の名称は正式なものではなく通称を付したものである。)

主要経済指標の概要

個人消費 ➡ 変化方向 **一部に底入れ感がみえたが、全体では横ばいで推移した。**

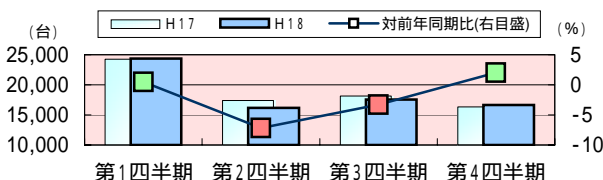
- (1) **大型小売店販売額**は全店舗ベースで総額2,305億円、対前年比1.8%となり2年振りに前年を上回った。 詳細は、P11に掲載

	販売額	(単位:百万円、%)	
		対前年同期比 対前年比(全店舗)	対前年同期比 対前年比(既存店)
第1四半期	55,430	3.8	3.1
第2四半期	56,341	4.0	3.6
第3四半期	57,464	6.5	1.5
第4四半期	61,306	0.9	2.3
H18年	230,540	1.8	2.6



- (2) **乗用車新規登録台数**は74,698台、対前年比1.8%となり、6年連続で前年を下回った。 詳細は、P13に掲載

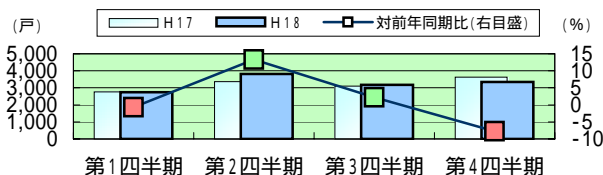
	登録台数	(単位:台、%)	
		対前年同期比 対前年比	対前年同期比 対前年比
第1四半期	24,346	0.5	
第2四半期	16,150	7.2	
第3四半期	17,529	3.3	
第4四半期	16,673	2.0	
H18年	74,698	1.8	



建設需要 ➡ 変化方向 **住宅は堅調。業務用は高止まり。公共は低調に推移した。**

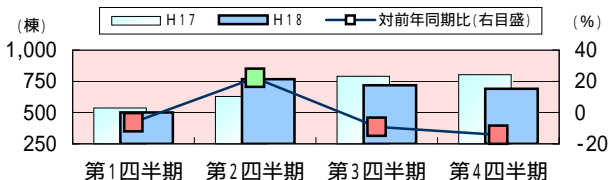
- (1) **新設住宅着工戸数**は13,076戸、対前年比1.7%となり、10年振りに前年を上回った。 詳細は、P15に掲載

	着工戸数	(単位:戸、%)	
		対前年同期比 対前年比	対前年同期比 対前年比
第1四半期	2,751	0.7	
第2四半期	3,814	13.3	
第3四半期	3,168	2.2	
第4四半期	3,343	7.7	
H18年	13,076	1.7	



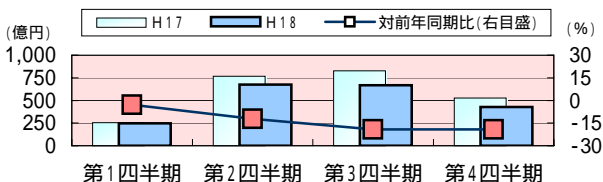
- (2) **業務用建築物着工棟数**は2,676棟、対前年比3.0%となり、4年振りに前年を下回った。 詳細は、P17に掲載

	着工棟数	(単位:棟、%)	
		対前年同期比 対前年比	対前年同期比 対前年比
第1四半期	502	6.3	
第2四半期	767	22.1	
第3四半期	718	9.2	
第4四半期	689	14.3	
H18年	2,676	3.0	



- (3) **公共工事請負金額**は2,014億円、対前年比15.1%となり、7年連続で前年を下回った。 詳細は、P19に掲載

	請負金額	(単位:億円、%)	
		対前年同期比 対前年比	対前年同期比 対前年比
第1四半期	246	2.8	
第2四半期	675	12.1	
第3四半期	668	19.2	
第4四半期	426	19.1	
H18年	2,014	15.1	

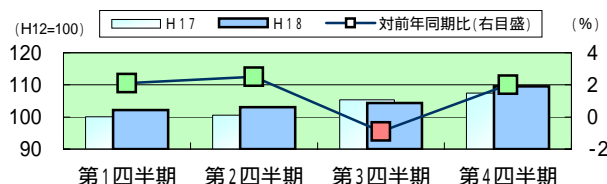


生産活動 ↗ 変化方向 **高水準を維持し好調に推移した。**

(1) **鉱工業生産指数**は104.8 (H12=100)、対前年比1.4%となり、4年連続で前年を上回った。 詳細は、P21に掲載

(単位: H12=100, %)

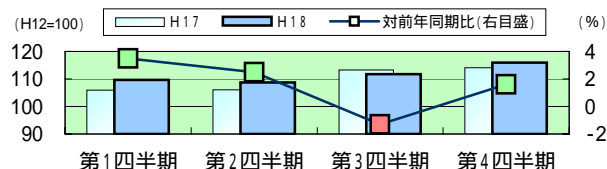
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	102.2	2.1
第2四半期	103.1	2.5
第3四半期	104.4	0.9
第4四半期	109.5	2.0
H18年	104.8	1.4



鉱工業出荷指数は111.5 (H12=100)、対前年比1.5%となり、5年連続で前年を上回った。

(単位: H12=100, %)

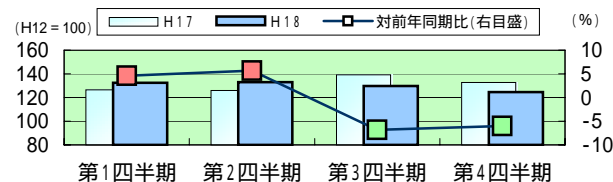
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	109.6	3.5
第2四半期	108.7	2.5
第3四半期	111.8	1.3
第4四半期	115.9	1.6
H18年	111.5	1.5



鉱工業在庫指数は130.0 (H12=100)、対前年比 0.8%となり、7年振りに前年を下回った。

(単位: H12=100, %)

	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	132.4	4.6
第2四半期	133.1	5.7
第3四半期	129.8	6.8
第4四半期	124.7	6.0
H18年	130.0	0.8

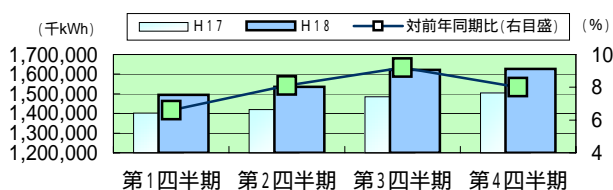


(2) **大口電力使用量**は約6,279百万kWh、対前年比8.0%となり、8年連続で前年を上回った。 詳細は、P25に掲載

(単位: 千kWh, %)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,495,218	6.6
第2四半期	1,536,139	8.1
第3四半期	1,621,488	9.2
第4四半期	1,626,215	8.0
H18年	6,279,060	8.0

(四半期値は、月値の平均値)



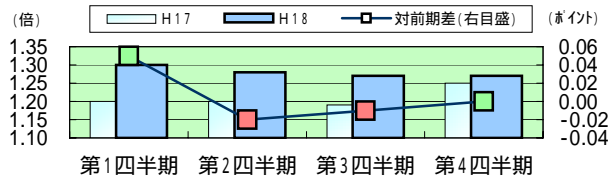
備考 1 指標名が**緑字**の場合には、前年より指標が改善したことを表し、指標名が**赤字**の場合には、前年より指標が悪化していることを表しています。
 2 ■ 図が左図の色の場合は、年ベースで見た場合に前年より指標が改善したことを表し、■ 図が左図の色の場合には、前年より指標が悪化したことを表しています。
 3 — 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、四半期ベースで見た場合に前年同期(前期)より指標が改善したことを表し、— 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、前年同期(前期)より指標が悪化したことを表しています。

雇用・労働 変化方向 → **雇用は改善基調。労働は足踏み状態が続いた。**

(1) **新規求人倍率** (原指数) は1.28倍、対前年差0.07ポイント上昇し、4年連続で前年を上回った。 詳細は、P27に掲載

(単位:倍、ポイント)

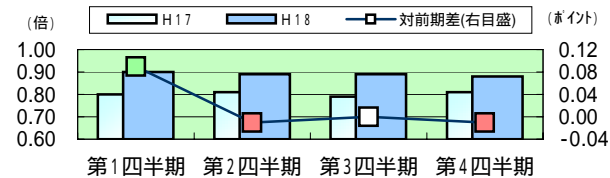
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	1.30	0.05
第2四半期	1.28	0.02
第3四半期	1.27	0.01
第4四半期	1.27	0.00
H18年	1.28	0.07



(2) **有効求人倍率** (原指数) は0.89倍、対前年差0.09ポイント上昇し、4年連続で前年を上回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:倍、ポイント)

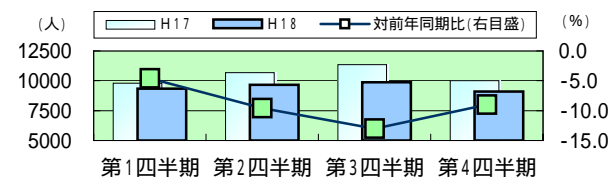
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.90	0.09
第2四半期	0.89	0.01
第3四半期	0.89	0.00
第4四半期	0.88	0.01
H18年	0.89	0.09



(3) **雇用保険受給者実人員** は9,494人、対前年比 9.2%となり、4年連続で前年を下回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:人、%)

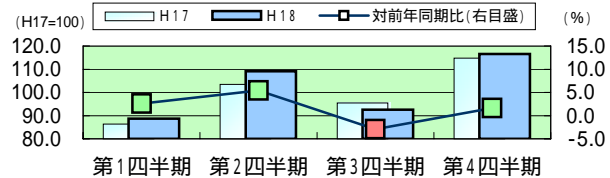
	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	9,347	4.6
第2四半期	9,660	9.6
第3四半期	9,864	13.0
第4四半期	9,104	9.0
H18年	9,494	9.2



(4) **現金給与総額指数** は101.7 (H17=100)、対前年比1.7%となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

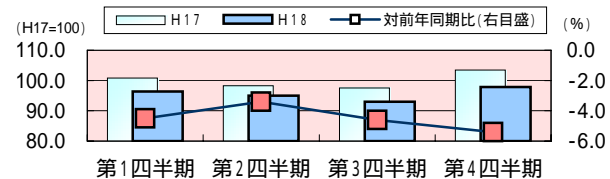
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	88.7	2.6
第2四半期	109.1	5.4
第3四半期	92.5	2.9
第4四半期	116.6	1.6
H18年	101.7	1.7



(5) **所定外労働時間指数** は95.6 (H17=100)、対前年比 4.4%となり、4年振りに前年を下回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

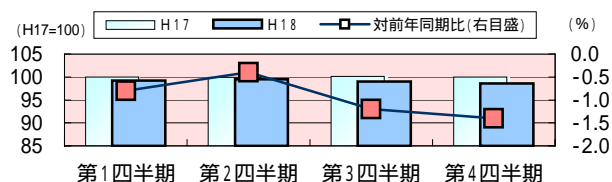
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	96.4	4.5
第2四半期	95.0	3.4
第3四半期	93.0	4.6
第4四半期	97.8	5.4
H18年	95.6	4.4



- (6) **常用雇用指数**は99.1 (H17=100)、対前年比 1.0%となり、8年連続で前年を下回った。 詳細は、P35に掲載

(単位: H17=100, %)

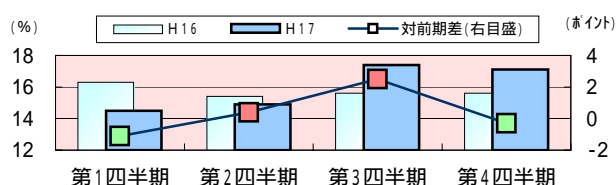
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	99.2	0.8
第2四半期	99.5	0.4
第3四半期	99.0	1.2
第4四半期	98.6	1.4
H18年	99.1	1.0



- (7) **パートタイム労働者比率**は16.0%、対前年差0.3ポイントとなり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P35に掲載

(単位: %, ポイント)

	労働者比率	対前期差 対前年差
第1四半期	14.5	1.1
第2四半期	14.9	0.4
第3四半期	17.4	2.5
第4四半期	17.1	0.3
H18年	16.0	0.3

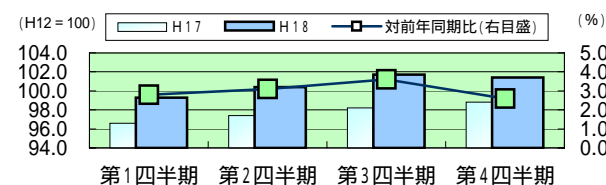


物 価 変化方向
物価は上昇した。

- (1) **国内企業物価指数**は100.7 (H12=100)、対前年比3.1%となり、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P37に掲載

(単位: H12=100, %)

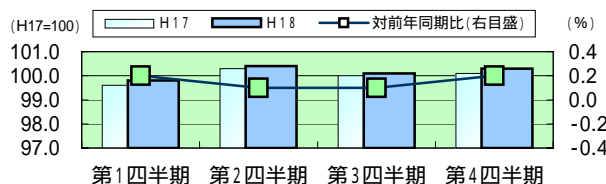
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	99.3	2.8
第2四半期	100.4	3.1
第3四半期	101.7	3.6
第4四半期	101.4	2.6
H18年	100.7	3.1



- (2) **福島市消費者物価指数**は100.2 (H17=100)、対前年比0.2%となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P39に掲載

(単位: H17=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	99.8	0.2
第2四半期	100.4	0.1
第3四半期	100.1	0.1
第4四半期	100.3	0.2
H18年	100.2	0.2



企業関連 ➡ 変化方向 **収益は改善が続き、企業倒産は微増した。**

- (1) **全産業の経常損益** (日本銀行福島支店「全国企業短期経済観測調査 福島県分」の調査結果より)は7.7%となり、5年連続で増益となった。 詳細は、P41に掲載

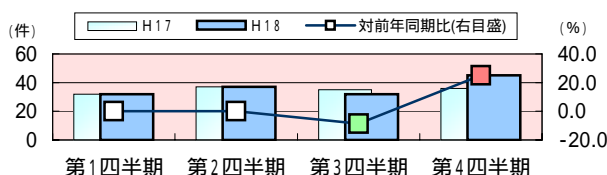
(単位: %)

	対前年比
H18年	7.7

- (2) **企業倒産件数**は146件、対前年比4.3%となり5年振りに前年を上回った。 詳細は、P43に掲載

(単位: 件, %)

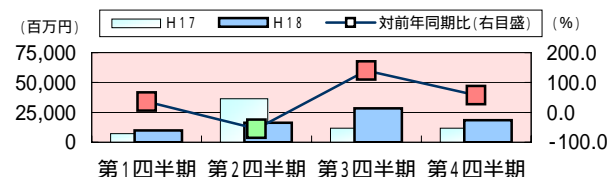
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	32	0.0
第2四半期	37	0.0
第3四半期	32	8.6
第4四半期	45	25.0
H18年	146	4.3



企業倒産負債総額は728億8000万円、対前年比8.5%となり、5年振りに前年を上回った。

(単位: 百万円, %)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	9,806	36.6
第2四半期	16,323	55.3
第3四半期	28,399	140.2
第4四半期	18,352	57.2
H18年	72,880	8.5

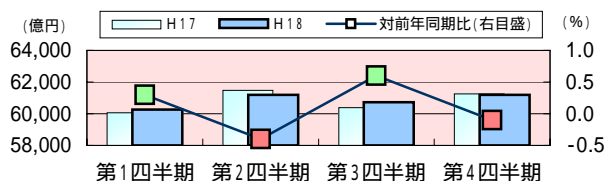


金融 ➡ 変化方向 **金融機関預貸残高は前年同水準で推移。金利は上昇。**

- (1) **金融機関預金残高**は総額6兆1,186億円、対前年比0.1%となり、4年振りに前年を下回った。 詳細は、P47に掲載

(単位: 億円, %)

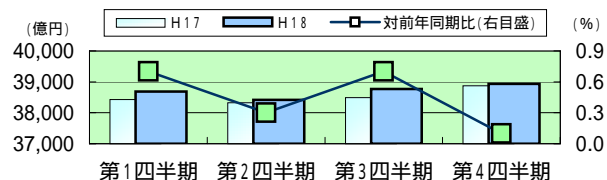
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	60,259	0.3
第2四半期	61,201	0.4
第3四半期	60,729	0.6
第4四半期	61,186	0.1
H18年	61,186	0.1



金融機関貸出残高は総額3兆8,930億円、対前年比0.1%となり、2年連続で前年を上回った。

(単位: 億円, %)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,689	0.7
第2四半期	38,421	0.3
第3四半期	38,766	0.7
第4四半期	38,930	0.1
H18年	38,930	0.1

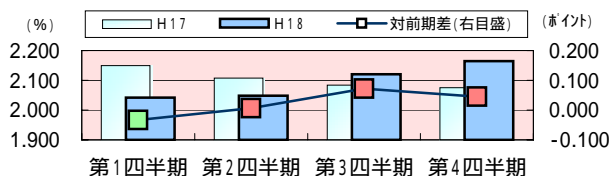


(2) **貸出約定平均金利**は地方銀行で2.165%、対前年差0.090ポイント上昇となった。

詳細は、P49に掲載

(単位: %、ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	2.042	0.033
第2四半期	2.048	0.006
第3四半期	2.120	0.072
第4四半期	2.165	0.045
H18年	2.165	0.090



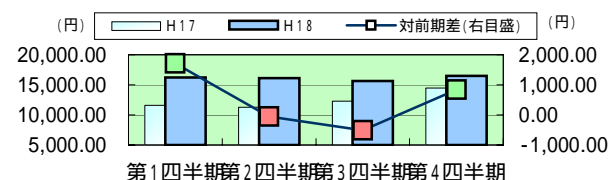
市場 **回復を続けた。**

(1) **東証一部日経平均株価**(225種、期中平均値)は16,110円38銭、対前年差3,687円80銭高となり、3年連続で前年を上回った。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	16,200.51	1710.61
第2四半期	16,143.40	57.11
第3四半期	15,630.61	512.79
第4四半期	16,476.19	845.58
H18年	16,110.38	3687.80

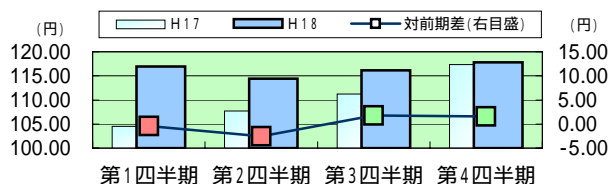


(2) **東京外国為替市場の円相場**(対米ドル、期中平均値)は116円31銭、対前年差3円05銭の円安となり、2年連続で円安となった。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	116.92	0.39
第2四半期	114.39	2.53
第3四半期	116.17	1.78
第4四半期	117.78	1.61
H18年	116.31	3.05



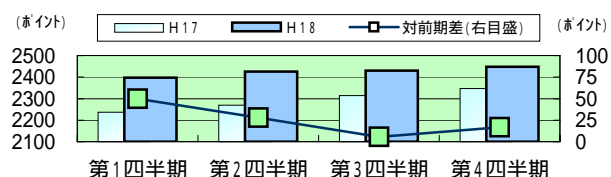
景気動向指数 **回復を続けた。**

(1) **福島県景気動向指数(DI)**は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の景気回復局面を持続した。

詳細は、P53に掲載

(単位: ポイント)

	累積一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	2,397	50
第2四半期	2,425	28
第3四半期	2,431	6
第4四半期	2,447	17
H18年	2,447	100



(年値は年末値)